

## 当館企画展

北陸新幹線開業記念イベント

## 工芸王国の実力！－魅惑の120選－

～明治から現代までの石川工芸の名品を一堂に～



竹園自耕「花鳥紋飾篋」【輪島市指定文化財】  
昭和7年 石川県輪島漆芸美術館蔵



氷見兎堂「桑造木象嵌卓」  
昭和34年 個人蔵



綿野吉二商店「赤絵金彩鳳凰図壺」  
明治(19c) 能美市九谷焼資料館蔵

### 特別陳列

## 加賀藩の美術工芸

前田育徳会尊經閣文庫分館

## 加賀の工芸

第2展示室

## 法邑利博 －加賀の幻想－

第3展示室

## 近代彫刻優品選

第4展示室

## ふれる美術

第6展示室

- 10月からの土曜講座
- ミュージアムレポート
- 企画展Topics
- 所蔵品紹介

# — 魅惑の120選 —

9月27日(土)～10月26日(日) 会期中無休



羽田登喜男  
「友禅白地総菊文振袖『美の饗宴』」  
昭和35年 当館蔵

## 初公開!

本展には、初公開となる作品が展示されます。前大峰の制作になる「沈金漆塗松図屏風」「沈金漆塗竹図屏風」「沈金漆塗梅図屏風」の三連作で、それぞれ二枚折の屏風(二曲一隻)の形に仕立てられています。輪島塗の伝統の技、沈金によって、屏風の大画面にそれぞれ松、竹、梅を豪華に表現しています。

個人からの依頼により、新築を記念して制作された作品です。「松竹梅」という祝意を表す伝統的なテーマを、三点一組の屏風にまとめあげました。中央の松図は縦長でやや細身の形にし、左右の「竹図」「梅図」は高さを抑え幅広の形に設定し、あたかも仏教絵画に見られる三尊形式を想起させます。安定した構成のもと、華やかな表現の中にも厳肅な気分が漂い、まさに作者が依頼者のために、八年間精魂を込めて制作に取り組んだ大作といえます。

昭和三十年、沈金で重要無形文化財保持者に認定された作者は、従来の技法に独自の彫り技を加え、量感豊かな芸術的表現を可能にしました。その成果は、たとえば当館が所蔵する前大峰「沈金猫文」は



前大峰  
「沈金猫文『けはひ』飾籠」  
昭和38年 当館蔵

「ひ」飾籠(同期間、第5展示室で展示)にうかがえます。小ぶりの作品ですが、小判形の蓋の表面に、細かい点彫りを中心とした沈金によって、何かの気配を感じる猫の瞬間の動きを見事にとらえており、その高い技術を伝えています。一方初公開の作品は、同じ沈金でも、「けはひ」の細やかな表現に対して、伸びやかで力強い彫りによって、ダイナミックな迫力を感じさせています。

ここで興味深いのは、どちらも同時期に制作されていることです。「けはひ」が制作されたのは昭和三十八年。一方、屏風の連作は、構想から八年の歳月を費やして四十二年に完成を見ていることから、屏風の制作途上で、「けはひ」が制作されたということができます。そう考えてみれば、重要無形文化財保持者に認定されてから約十年、円熟した技を自由に駆使して、繊細にして大胆、柔軟にして剛直に、持てる力を遺憾なく発揮した時代であったといえるでしょう。

※沈金・漆で固めた面に刀で文様を彫り、その溝に金を沈めて文様を浮かび上がらせる技法

### ◆観覧料

	個人	団体(20名以上)
一般	800円	600円
大学生	600円	400円
高中小生	200円	100円

※当館友の会会員は会員証の提示により団体料金に割引されます。



前大峰「沈金漆塗梅図屏風」  
昭和42年 個人蔵



前大峰「沈金漆塗松図屏風」  
昭和42年 個人蔵



前大峰「沈金漆塗竹図屏風」  
昭和42年 個人蔵

# 工芸王国の実力！

## 関連行事

■映画上映「石川の工芸作家」

九月二十八日(日)【陶芸】

—午後一時三十分—

①「くい呑から環境造形まで  
日本芸術院会員 武腰敏昭」(43分)

②「釉下燦々 人間国宝 吉田美統」(32分)

③「土火への祈り  
大樋焼 十代大樋長左衛門」(23分)

十月十二日(日)【漆工】

—午前十時三十分—

①「宙へ 人間国宝 中野孝二」(40分)

②「髹漆 小森邦衛のわざ」(37分)

—午後一時三十分—

①「煌めき 人間国宝 前史雄」(35分)

②「光彩 日本芸術院会員 三谷吾一」(36分)

十月十九日(日)【染織】

—午後一時三十分—

①「夏去る 人間国宝 二塚長生」(60分)

十月二十六日(日)

【金工】

—午前十時三十分—

①「輝彫 人間国宝 中川衛」(36分)

②「響 人間国宝 三代魚住為楽」(42分)

【木工】

—午後一時三十分—

①「道 人間国宝 灰外達夫」(45分)

②「木魂 人間国宝 川北良造」(24分)

会場は当館ホール、入場無料



初代調訪蘇山「葡萄透し花瓶」  
大正 石川県立工業高等学校蔵

■加賀象嵌制作ワークショップ

十月十九日(日)

午前の部：午前十時～十二時／午後の部：午後一時三十分～三時三十分

会場は美術館講義室、定員は各10名

【参加費】一人500円

【申し込み】往復はがきで申し込んでください。

(協力：公益財団法人 宗桂会)

※詳細は、前号の美術館だよりをご覧ください。

■ギャラリートーク

九月二十八日(日)、十月五日(日)、十九日(日)

午前十一時～

展覧会場にて当館学芸員が行います。

※要人場料

## 学芸員の眼

先頃、金沢に伝わる「縁付金箔」が、国の「選定保存技術」に選定されるよう文化審議会から文部科学大臣に答申されたと報道されました。選定保存技術は、重要無形文化財に比べてなじみの薄いものですが、昭和五十年に創設された制度です。その主旨は、文化財の保存のために欠くことのできない伝統的な技のなかで、保存の措置を講ずる必要があるものを「選定保存技術」として選定するというものです。

「縁付金箔」は、国産金箔のほとんどを生産している金沢の地において伝えられてきた製法で、手間をかけて作った箔打紙の間に一つ一つ金片を挟んで、千分の一ミリ程度に打ち伸ばして金箔に仕上げていきます。工業化・合理化された工程で製品化された箔に比べ、微妙にしなやかさや柔らかさなどに優れているといわれ、今日でも漆芸や截金などで使われています。

今回展示されるさまざまな工芸品には、このような手の込んだ素材作りの伝統の技が、その奥に秘められているということを含めて、ご鑑賞いただければと思います。

※「伝統工芸支える手間暇」山崎達文(北國新聞平成二十六年八月七日)を参考にさせていただきます。



二代山川孝次「金銀象嵌諷刺形置物」  
明治 公益財団法人 宗桂会蔵

特別陳列

# 加賀藩の美術工芸

9月27日(土)～10月26日(日) 会期中無休

前田育徳会  
尊經閣文庫分館

## 学芸員の眼

大名家が古今東西の文物を収集することは、単に経済力など社会的なステイタスを誇示するものに過ぎないと、時に否定的に評価されます。加賀藩主前田家が推進した文化政策が今日高く評価される背景には、十六代利為侯の尽力があります。陸軍武官であった利為侯は、武人が文化活動を通して精神を高めていく必要性を改めて理解し、五代藩主綱紀ら歴代藩主の文化的業績にも深く共感しました。そこで教育事業・編纂事業・文庫の創設などの文化事業を精力的に推進し、様々な意味で困難な時代にあっても、人間の陶冶、文化財の保全の重要性を強く主張しました。

また文庫の創設にあたっては、新たに書籍・典籍、美術工芸作品も購入しました。今回の「馬郎婦観音像」もその一つですが、歴代藩主による収集活動の延長線上に位置付けるのにふさわしい名作といえます。

今回は、久々に公開される重要文化財三点を紹介いたします。最初は前回写真を掲載した「馬郎婦観音像」です。『法華経』には、観音(観世音菩薩)はあまねく衆生を救うために、相手に応じて三十三の姿に変身すると説かれています。本作は、美女に姿を変えた観音の説話によるものです。唐時代の九世紀、中国のある町にどこからともなく美しい女性が現れました。町の若者たちはこぞつてこの女性に求婚しますが、女性は三日間で『法華経』全二十八品をそらんずることを条件とします。馬家の若者はその条件を満たし、女性を花嫁に迎えることになりました。しかし婚礼の夜に花嫁は急死し、花嫁衣装を着たまま葬られました。数日後老僧が現れ、花嫁を埋葬した場所に案内させます。老僧が棺を開くと、中から金の鎖となった骨が出てきました。そこで老僧は、この女性は観音だった

ことを明かしました。今回展示される作品は、この説話に登場する女性のたおやかな美しさを見事に表現しています。その点が、筆者を李龍眠と伝えるゆえんと考えられます。

次は、本阿弥光甫が加賀藩三代藩主、前田利常の命により制作した「牡丹獅子造小さ刀拵」です。本作は、室町時代に装剣金工で名を成した後藤家初代の祐乗作と伝えられる貴重な金具を、黒漆と研出鮫による拵に惜しみなく使用した大名好みの名品です。大名好みといえば五代藩主綱紀が作成し、十六代利為侯が改編した「武家手鑑」の上帖も注目されます。そこには、数少ない平清盛の自筆も収められています。

## 第3展示室

# 法邑利博展

—加賀の幻想—

9月27日(土)～10月26日(日) 会期中無休

法邑利博の近年の二紀展出品作は「空の杜」というタイトルをメインとして、その後には「花神の棲む」花の音降る「花吹雪」などのサブタイトルが続きます。満開の白い花びらの間から顔をのぞかす花神や鳥、不思議な獣たち、木花咲耶姫が棲んでいるような世界が、美しい色彩で描かれています。法邑の作品は洋画に区分されますが、細く均一な線や陰影を抑えた色面構成、文様の多用など、装飾性に富んだ画面は、日本画あるいは工芸品をも連想し、一般の洋画作品とは異なります。これは法邑が加賀友禪作家であることと深い関連があると思われます。法邑は昭和二十三年金沢市生まれ。機械設計の技師から加賀友禪へ、異色で大きな転換を二十八歳

の時にを行いました。仕事が面白くなるにつれて絵を描く時間を失い、絵を描く仕事をと考えると、友禪作家中町博志に弟子入りしたのです。独立は五十八年、以後画家と友禪作家を兼ねて制作を行ってきました。二紀会には技師時代の四十九年に初出品し、初入選で褒賞受賞、シニールな世界を囚われ人や工場、白馬、人形などをモチーフに描いています。その後、瑞鳥や牡丹、松など和的要素が加わって行きました。今回の展示では、二紀展初出品作から最近作まで、二十二点の作品により、法邑の創作の歩みをご覧いただけます。理系出身で友禪作家、そして画家という、多様な有り様が融合して生まれる豊穡な世界をご堪能ください。



法邑利博「空の杜—花神の棲む」2011年

## 第2展示室

# 加賀の工芸

9月27日(土)～10月26日(日) 会期中無休

北陸新幹線金沢開業まで残すところあと半年と迫って参りました。すでに、七月には金沢駅の新幹線ホームなどが関係者に公開され、そのホームや待合室などでは、加賀友禪や九谷焼、蒔絵、加賀象嵌など、人間国宝や芸術院会員を含む地元の工芸作家による作品や伝統工芸品が、工芸王国・石川の顔として、来県者をお迎えするようです。

このように、今日の美術工芸王国石川の礎は、藩政時代の加賀藩前田家が奨励した文化政策によるものです。江戸時代の「加賀の工芸」を展示し、秋季企画展「工芸王国の実力！魅惑の120選」とあわせて、当地の文化の伝統や歴史を再考いただきましたと思います。作品は、古九谷・加賀蒔絵・大樋焼・釜・加賀象嵌・加賀友禪です。古九谷は加賀藩三代藩主利常が威信をかけて支藩の大聖寺藩の藩窯と

して操業させたやきものです。その華やかで豪壮な趣は他のやきものにはみられないものであり、十七世紀後半の約半世紀で閉窯した謎多きやきものです。加賀蒔絵は、同じく利常が招いた京都の五十嵐道甫や江戸の清水九兵衛によってその基礎が築かれますが、秋草をモチーフとした格調のある作品が主流であり、季節感とともに楽しんでいただける内容です。大樋焼は、五代綱紀の茶堂として招かれた裏千家仙叟宗室に茶碗師として同伴した土師長左衛門が大樋村に開いた楽焼窯で、「鉛釉」に侘びた独特の趣があります。また同じく仙叟好みの茶の湯釜を制作し、仙叟の推挙により加賀藩の御用釜師となった初代宮崎寒雉の侘びた雅味ある釜などを公開しますので、現代へ続く加賀の工芸をご堪能ください。



蒔絵春秋花卉図硯箱 伝五十嵐道甫作

## 第6展示室

# ふれる美術

9月27日(土)～10月26日(日) 会期中無休

平成二十一年一月「遠き道展」と題した現代日本画の展覧会が当館で開催されました。この展覧会では、現代日本画の潮流と視覚障害者のための平面鑑賞の方法を紹介しました。平成二十四年に当館は「遠き道展」の主催者より、石川県関係作家の作品と縮尺レリーフなどが付属している作品をあわせて十二点の寄託を受けました。今回の特集では、その中から七点の日本画と、それに付属した触れることの出来るレリーフなどを展示します。また彫刻分野からも当館所蔵品より展示します。こちらにも直に触れてみて質感やボリュームなどを感じ取り、彫刻の魅力を味わって頂きたいと思えます。本特集で展示する彫刻や日本画のレリーフは、視覚障害者のみでなく晴眼者もご利用頂けます。



展示作品の縮尺レリーフ

## 第4展示室

# 近代彫刻優品選

9月27日(土)～10月26日(日) 会期中無休

芸術の秋もいよいよ本番、第4展示室は一部、油彩画との合同展です。さてご存じのように当館のコレクションは、石川県出身者から当県で活躍した作家など当県ゆかりの作家を中心とするもので、特に彫刻分野ではその傾向が強いようです。今回の展示は、多くの彫刻作家の代表作を選んで展示するものです。見慣れた作品であっても組み合わせが異なると、新たな魅力発見に繋がるのではないかと思っています。なお同時期に第6展示室で開催中の「ふれる美術」では、手で触れて材質の違いを体験する小コーナーを設けます。石・ブロンズ・プラスチックなど様々な彫刻素材の違いと特徴を感じていただければ幸いです。



得能節朗「歌姫」  
1984年

## 十月からの土曜講座

【土曜講座について(後半)】

本年度の後半(十月以降)の土曜講座の予定です。共通テーマほか、各学芸員が担当するジャンルや展示に係る内容の講座。また自由テーマとして、日頃の調査研究に係る内容の講座等多様な内容です。

申込不要、聴講無料です。どうぞお気軽にご参加下さい。

月日	内容(予定)	担当学芸員
10月18日	石川の工芸	西田 孝司
10月25日	前田家伝来の名物裂	村上 尚子
11月8日	加藤東一門と稻元実	前多 武志
12月13日	近代工芸と茶道具	寺川 和子
12月20日	スポーツと美術	北澤 寛
1月10日	高山右近とその時代Ⅰ	村瀬 博春
1月17日	高山右近とその時代Ⅱ	村瀬 博春
1月24日	前田家と利休七哲	高嶋 清栄
1月31日	高山右近とその時代Ⅲ	村瀬 博春
2月7日	銅像でみる石川の人物史	北澤 寛
2月14日	石川の油絵3 昭和と平成	二木伸一郎
2月21日	美術にみる色・緑	西田 孝司
2月28日	水野博と石川県ゆかりの友禅作家たち	寺川 和子
3月7日	名作に学ぶ日本画の構図	前多 武志
3月14日	仏教のひろまりと平安彫刻	谷口 出

# 夏休み体験講座・鑑賞講座

今年度の夏休みも親子で美術館で楽しんでいただく制作体験三講座と、夏休み向けの子ども用展示「アートdeかるた」の鑑賞講座が行われました。

制作体験の低学年対象「木の人形をつくろう」は、低学年では学校の図工の授業でもまだ触れる機会のない木の素材の制作です。ポンドで接着することで積み木感覚でいろいろな試しながら作ることができ、表情豊かで個性的な人形がたくさん生まれました。高学年対象「型染めでおしゃれTシャツ」では、花形などを作る時の折り紙を三角などに折ってはさみを入れて「切り紙」の方法で型紙を作ります。その後、試行錯誤して作った型紙を使ってステンシル感覚でTシャツへの型染めをしました。色とりどりの花が咲く、まさしくおしゃれTシャツの力作揃いの講座となりました。全学年対象「もみ紙でアート」では、古くから日本に伝承されてきた技法「もみ紙」を作ることから体験。身近な画用紙がもむことよって新しい素材となることの驚きから、柔らかく変身した素材の魅力に引き込まれ、楽しいパペット人形などの制作を存分に楽しみました。

「アートdeかるた」の展示室を楽しむ鑑賞講座では展示室の作品をかるたの絵札に見立て、二階展示室で気に入った作品の読み札を作る活動に取り組みました。お父さん・お母さんに子どもたちとご家族お揃いで参加いただいた方もたくさんいらっしゃいました。「かるたの読み札を作ることで、いつもよりじっくり、また、子どもと同じ目線で作品を見られたことが、夏休みの良い思い出になった。」との感想もいただきました。



## 企画展 TOPICS

### 高山右近とその時代

室町時代末期の十六世紀半ばに鉄砲とキリスト教が伝来したことは、戦国時代から天下統一への歴史的転換に極めて重要な影響を与えました。高山右近（一五五二年～一六一五年）の生涯は、まさにこの激動の時代を象徴するものでした。本展は、来年二月三日が高山右近没後四〇〇年の節目にあたることから、生涯と人物像を歴史的視点から再考することを趣旨として、右近が晩年の二十六年間を過ごした金沢で開催するものです。

展示内容は、右近の遺品や右近に関わる歴史資料、千利休や当時の有力な茶人に関わる茶道美術、西洋文化の影響を反映した十六世紀から十七世紀のいわゆる南蛮美術、石川県をはじめ北陸地方に伝来したキリシタン遺物と、多くの見所を用意しています。



「救世主像」1597年  
東京大学総合図書館蔵

## 十月の行事予定

■講演会（法邑利博展関連）	午後1時30分	美術館ホール	聴講無料
5日（日）	水と油が溶けあうとき	講師：法邑利博氏（洋画家）	
■百万石の文化講座	午後1時30分	美術館ホール	聴講無料
11日（土）	最後の藩主慶寧と側室筆の出会い	講師：徳田寿秋氏（元石川県立歴史博物館館長）	
■土曜講座	午後1時30分	美術館講義室	聴講無料
18日（土）	石川の工芸	西田孝司	
25日（土）	前田家伝来の名物裂	村上尚子	
■兼六園周辺文化の森ミュージアムウィーク			
期間：10月4日（土）～12日（日）			
今年も茶会、コンサートなど多彩な行事が目白押しミュージアムウィーク。詳細は同封のチラシをご覧ください。			

初代 宮崎寒雉 しょだい みやざき・かんち 寛永8年~正徳2年(1631~1712)



肩から胴にかけて三段の段がつけられた斬新な姿で、口造りは輪口、釜肌は袖の皮肌に似た寒雉独特の荒肌で、雅趣に富んだ尾垂釜です。蓋は共蓋と、唐金の替蓋があり、段のある共蓋を使用すると絶妙なバランスをみせる五段釜となります。段々釜の視覚的効果に、寒雉の創意を見ることが出来ます。また、替蓋は掬蓋<sup>すく</sup>で、摘みは相輪のある三重塔がついており、山頂に立つ仏舎利塔を表現するかのような荘厳な趣となります。箱の蓋表左下部に「釜屋／寒雉」と墨書があります。

作者の初代宮崎寒雉は、鳳至郡中居村（現在の穴水町中居）に生まれ、名を義一、通称を彦九郎、号は一艸庵寒雉。上洛して大西浄清に弟子入りして技術を習得したと伝えられています。その後、裏千家四世仙叟宗室との出会いから、その指導を得て仙叟好みといわれる茶の湯釜を制作しました。また、仙叟の推挙により加賀藩前田家の御用釜師として、侘びた風情のなかに雅味のある独創的な茶の湯釜を造りました。焼飯釜や葫蘆様釜、さらには十文字釜などの作品が今日に伝えられています。その後、宮崎家は代々加賀の茶の湯には欠かせない釜師の家として、現在は十四代を数えます。

### 次回の展覧会

会期: 10月30日(木)~  
11月24日(月・休)

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室	
名物裂と調度		石川県の名宝	
第3展示室	第4展示室	第5展示室	第6展示室
石川の作家たち	一いのちの花ー 稲元美展	石川の工芸	石川の作家たち

**ご利用案内**

コレクション展観覧料  
 一般 360円(290円)  
 大学生 290円(230円)  
 高校生以下 無料  
 ※( )内は団体料金  
 毎月第1月曜日はコレクション展示室無料の日(10月は6日)

今月の開館時間  
午前9:30~午後6:00

カフェ営業時間  
午前10:00~午後7:00 年中無休

**10月の休館日**  
27日(月)~29日(水)

Meiカード

ポイントプラスデー

毎週水曜日は  
エムザでお買物

Meiカード  
通常ポイント

+

3%  
ポイント  
プラス

MEITETSU  
MIZA

めいてつ・エムザ

金沢 むさし TEL(076)260-1111(代)  
www.meitetsumza.com  
10時~19時30分(地階レストラン街・書籍は21時まで)

石川県立美術館だより  
第372号(毎月発行)  
2014年10月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/